

荒井 輝二さん
(田沼町)

キラリ★話題の「ひと」



○プロフィール

全国健康福祉祭(ねんりんピック)や健康麻将全国大会に栃木県代表として出場経験あり。

体に良い健康マージャン

皆

さんは厚生労働省が主催するねんりんピックの競技の中に「飲まない・賭けない・吸わない」を原則とした健康麻雀という正式種目があるのをご存じですか？

田沼町で自営業をされている荒井さんは、ねんりんピックのほか、厚生労働省後援の健康麻将全国大会に、栃木県代表選手として出場する實力をお持ちの方です。

お若いころは麻雀を趣味として楽しんでいたそうですが、60歳を迎え、少し時間の余裕が持てるようになったのを機に、また始め出したとのこと。「ただの麻雀好きなおじちゃんですから！」と謙遜されますが、持つて生まれた才能と實力で、2013年に初参加した高知ねんりんピックでは、全国9位という成績を残されました。

その後は、栃木県健康マージャン協会にスタッフとして所属し、健康麻雀の推進・発展のために、下野市や岩舟など数カ所所麻雀教

室の講師としても活動されている荒井さん。健康麻雀は頭や指先を使うため、認知症予防に効果的とされ、最近では介護レクリエーションの一つとして取り入れたり、リハビリに利用されることもあるそうです。麻雀のイメージが

ずいぶん変わりますよね。残念ながら、今年のねんりんピックは緊急事態宣言下により中止となってしまいました。次に控える国民文化祭「紀の国わかやま文化祭2021」に向けて「平常心でやるだけですよ！」と笑顔で答えてくださいました。

(市民記者 小林春美)



▲高知ねんりんピックでの競技風景

市長からの

メッセージ

今年も残すところ1カ月になりました。市長に就任して8カ月が経過し、これまでにない日々の速さに驚きを感じ、緊張感を持ちながら市長職を行っております。多くの市民の皆さんからのご支援やご協力により市政運営に当たれますことに感謝申し上げます。

さて就任後、重点課題として取り組んできた中で、令和元年東日本台風からの復旧復興工事については96.7%が完了となり、復旧完了の道のりが見えてきました。ハード面の対応以外にもソフト面の対応として①浸水想定区域や土砂災害区域を追加した「ハザードマップの改訂」②ケーブルテレビや防災の活用した「緊急放送対応」③災害情報や避難所情報の一元管理を図る「佐野市災害情報共有システムの導入」④迅速円滑な被災者支援のための「佐野市災害ボランティア活動推進条例の制定」など、市民の皆さんの安心安全の充実強化を図ってまいりました。

また、重点課題2つ目の新型コロナウイルスへの対応ですが、3回目のワクチン接種に向けて早急に体制を整えてまいります。今月より医療従事者の接種を開始できるよう体制の準備を進め、接種券につきましては11月下旬より順次発送しております。接種会場は、引き続き浅沼町の「イオンタウン佐野」と「田沼中央公民館」で接種できるよう調整中です。また、初回接種につきましては、新たに12歳になった児童やさまざまな事情で接種できなかった市民の方についても別途実施していきます。

冬本番を迎え、新型コロナウイルス感染症の第6波やインフルエンザの流行も懸念されますので、市民の皆さんには引き続きの感染防止対策の徹底をお願いします。来年が皆さんにとって、幸多き年となり安心を実感できる年となることをご祈念いたします。

(11月15日 記)
金子 裕





「佐野黒から揚げ」が全国で販売開始

11 月3日(水・祝)から、全国のミニストップ約2,000店舗で、佐野市の新ご当地グルメであるソース味の唐揚げ「佐野黒から揚げ」の販売が開始されました。

「佐野黒から揚げ」は、佐野市を愛するパパたちのグループ「パパプロe街佐野奉行所」が考案したものです。奉行所の皆さんは、いもフライをはじめとするソース文化に着目して、ソース味の唐揚げを開発しました。「佐野黒から揚げ」は、今では市内の多くの店舗で販売される佐野市の新名物となっています。

ミニストップで販売されている「佐野黒から揚げ」は、新鮮な鶏肉を独自のタレに漬け込み、しっとりジューシーな食感に仕上げています。食べた瞬間にソースの甘味と酸味がふわっと広がり、唐辛子と黒コショウの辛みが残る少し濃いめな味付けで、おかずやおつまみにぴったりです。また、店内では金子市長のアナウンスが流れ、販売される商品の紹介をしています。1度食べたらくせになる佐野黒から揚げを、ぜひご賞味ください。



▲動画はこちら



チェーンソーカービングが実施されました

11 月7日(日)、田沼グリーンスポーツセンターにて「佐野市林業振興会チェーンソーカービング2021」が実施されました。同会によるチェーンソーカービングは、例年「どまんなかフェスタ」内で実施されていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により同イベントが中止となったため、今回はその代替事業としてチェーンソーカービングのみを実施したものです。今回の参加者は5人で、各々がチェーンソーを駆使し、1本の丸太から作品を削り出していました。参加者の1人で、日本チェーンソーアート協会副会長の栗田宏武さんは「今回は魚を狙う鷲をモチーフに作品を制作した。チェーンソーならではの荒々しい質感を残したのが今回のポイント。全体のバランスを崩さずに作品を仕上げるのが難しかった」と語ってくれました。



普通の程度よりずっと大きいことを、方言で「ズナイ」といい、変化してズネーともいいます。

秋は稲や麦など農作物の取り入れどきで、農家にとつては猫の手も借りたいほど忙しい時季です。小さきまざまな作物がたくさんとれます。長くて大きな大根を「ズネーデーコ」、大きくて太いさつま芋を「ズネーさつま」などと、あちこちで「ズネー」ということが聞かれます。

しかし、最近ではズナイとかズネーというトシヨリ(年寄り)がめつきり少なくなりました。今では、デツケー・デスケーということが多く、まれにはズデツケーが使われることがあります。ズデツケーの「ズ」は、デツケーを強める語で接頭語といえます。

「アスコにタグロマイテル青大将はデツケーなんてモンジャーネーよ。ほら、まるで大蛇と思われるほどズデツケカンベ(でつかいでしよう)」。※タグロマク(またはタグルマク)は「とぐるまく」の音が変わったものです。

「ズナイ」の変化したものにツナイ(ツネー)という方言もあります。

「このさつまはだいぶツネーから、1個だつてだいぶ重たカンベー? (重たいでしよう)」

以上のほかに、非常に大きい意の方言としてエカイ(エケー)が使われます。

「チッチー西瓜ヨカ(ヨリ)エケー西瓜の方がアmeer(甘い)とは限ンネーよ」

エカイ(エケー)は、「たいそう」という意の「敵い」が変化したものです。

(市民記者 森下喜一)

佐野弁
ばんざい

作物などできわ立って大きいものは
ズネーまたはエケーという

